

令和7年度 学校評価（目標設定）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	<p>1 「キャリア教育」の視点、「シチズンシップ教育」の視点を踏まえて、教科横断的な授業を定着させる。</p> <p>2 I C Tの利活用を推進する。</p>	<p>1 「防災教育」「心からだ」「消費者教育」「進路学習」について、教科横断的、系統性のある3年間の学習内容表を作成する。</p> <p>2-① 生徒一人ひとりが安全に留意しながらクロームブック等を活用した学習経験を積むことができる。</p> <p>2-② I C T活用に関する研修内容を活かした授業実践例を増やし、スキルを共有できる仕組みづくりを進める。</p>	<p>1 グループでそれぞれのテーマでの扱う学習内容を検討する。学習内容を扱う教科や学習場面、時期等、細分化しながら整理する。</p> <p>2-① I C T管理マニュアルに基づき、情報モラル、情報リテラシーについての学習を行う。また、ルールを守ってクロームブックを活用できたり、アンケート等により確認する。</p> <p>2-② 実践形式の研修を計画する。実践の好事例を取り上げる等して、活用イメージを共有できるように工夫する。教員対象のアンケートにより、実践状況や活用に向けた意識の変容を確認する。</p>	<p>1 テーマごとに教科横断的かつ系統性のある3年間の学習内容表を作成させることができたか。</p> <p>2-① ルールやマナーを守り、クロームブック等を使って学習することができたか。</p> <p>2-② I C T活用の実践例を昨年度よりも増やすことができたか。また、スキル等を共有できる仕組みを構築することができたか。</p>
2 (幼児・ 児童・) 生徒指 導・支援	<p>1 生徒個々の長所、強みに着目する視点を重視して、実態を把握し、ニーズに応じた指導、支援を行う。</p> <p>2 生命（いのち）の安全教育を推進し、生徒が安心して学べる環境をつくる。</p> <p>3 生徒自らの安全確保につながる意識を育てる。</p>	<p>1 アセスメントによる評価を活用し、合理的な配慮がなされた学習活動を実践する。</p> <p>2 自分自身を大事にする授業内容の精選やその検証を行う。生徒が安心して学べる環境をつくる。</p> <p>3 学校生活における災害時の危険を知り、危険を回避する方法など、できることについて考え、家庭でも活かせるようになる。</p>	<p>1 太田ステージの評価から導き出される見立て方や支援の方策例を学ぶ研修を行う。アセスメント結果から検討した合理的配慮が学習活動に反映されているか確認する。</p> <p>2 交通安全、携帯電話、サイバー犯罪、いのちの授業等、「○○教室」の内容の精選、検証を行う。搜索や緊急下校等の訓練を実施する。また学校保健計画に基づき学校保健を推進する。</p> <p>3 摆れ、火災の疑似体験をとおして、学校生活で災害時の状態を想像できるようにする。また、危険を回避する方法やその時に自分ができることについて考え、家庭でできる防災活動のきっかけとする。</p>	<p>1 アセスメント結果を活用した学習活動が展開できたか。</p> <p>2 「○○教室」等の内容精選や社会状況に沿ったものであるかの検証ができたか。緊急時の訓練を実施し教員の動きを確認できたか。また学校保健計画に基づき学校保健を推進できたか。</p> <p>3 災害時に学校生活で起こりうる状態を想像することができたか。災害時の危険や、それを回避する方法について考えることができたか。また、自分は何ができるのかを考え、家庭で話題にできたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	1 将来の充実した生活を目指して、生徒個々の発達段階に応じた進路指導、支援を行い、希望する進路の実現と定着支援を図る。	1 系統性のある3学年分の「職業」年間指導計画を作成し、3年間を通した進路学習が行えるようにする。	1 「職業」の教科で、進路学習内容一覧を年間指導計画に取り入れる。また、進路校外学習との関連性、教科横断的な進路学習について検討し、次年度の年間指導計画等に反映できるよう整える。	1 進路学習内容一覧を活用した職業の年間指導計画を作成、他の教科での反映に向けた検討ができたか。また、進路校外学習についても系統性のある学習を踏まえた内容になるよう検討することができたか。
4	地域等との協働	1 学校と地域が連携・協働して、共生社会の実現に向けた活動を行う。 2 支援教育の充実を目指し、センター的機能を發揮する。 3 ホームページを活用した情報発信を充実させる。	1-① 地域との結びつきを活かした活動を通して、生徒が役割意識や目標をもち、主体的に取り組む姿勢を育てる。 1-② 避難訓練時の評価者に助言をもらうなど、地域の方と連携して防災教育に係る活動を展開する。 2 学年・学部内に働きかけを行い、ケース会や医事相談等の「相談」をより浸透させる。また、巡回相談の状況等、センター的機能に関する情報発信を行う。 3 保護者のニーズ調査を活かした、見やすいホームページ作りを推進する。また、ホームページ上で一般向けのニーズ調査を行う。	1-① 作業学習や地域でのイベントにおいて、校外や地域等の他者との関わりを意識できるような事前事後学習を行う。振り返りにより、生徒の意識の変容を把握する。 1-② 地域の方に避難訓練時の評価者役をお願いし、アドバイスをいただく。避難所体験で、地域の方と一緒にできる活動を考える。 2 「相談の流れ（令和7年度作成）」を参考に「相談」についての呼びかけを行う。また、センター的機能について、役割意識を職員間で共有したり、取組状況等をよこひな通信で保護者等へ発信したりする。 3 ホーム画面の見出しを整理する。二次元バーコードについて通信に掲載するなど、利用を推進し情報の探しやすさにつなげる。一般向けのニーズ調査を行う。	1-① 生徒が役割意識や目標をもち、主体的に地域の中での活動に取り組むことができたか。 1-② 地域の方からの避難訓練の評価やアドバイスをもとに、改善でききたか。避難所体験で、地域の方と生徒が、より協力した活動ができたか。 2 支援方法等について、様々な規模でのケース会や話し合いが行われたか。また、学校が担う役割や巡回相談の状況等、センター的機能に関する情報発信を行うことができたか。 3 見出しの整理をすることで見やすくなったか。二次元バーコードを利用し、情報の探しやすさにつながったか。ニーズ調査の結果を改善につなげられたか。
5	学校管理 学校運営	1 教職員の専門性や人権意識、服務規範意識の向上を図る。 2 教職員の健康管理を徹底する。 3 業務の効率化や職場環境の整備と促進を図る。	1 人権や不祥事防止に関する意識の醸成を図る。 2 イエローカード受領者への受診、ストレスチェック等の受検率を上げる。健康管理に関する啓発資料や情報を周知する。 3 業務の効率化に関する提案と実践を進め、ICTを活用した事例を収集し、実践する。	1 人権研修や不祥事防止研修をとおして、人権や不祥事に関する意識の醸成を図る。 2 健診結果を把握し、未受診の教職員へ繰り返し周知する。管理職や産業医による面接を実施したり、産業医の指導助言資料の周知を実施したりする。 3 職員から意見を聴取して課題を整理するとともに改善策の提案をして実行に結びつける。また、ICTを活用した実践にもつなげる。	1 研修後にアンケートを取り、振り返ることができたか。また、研修の方法を工夫できたか。 2 教職員が受診することができたか。管理職や産業医による面接、産業医の指導助言資料の周知を実施できただか。 3 職員から意見を聴取して課題を整理することや改善策の提案をすることができたか。ICTを活用した実践を行なうことができたか。